

金沢大学附属図書館
大学図書館未来構想2022

2022年2月14日

金沢大学

目 次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
「金沢大学附属図書館 大学図書館未来構想2022」策定の経緯と趣旨	
大学図書館全般の動向・・・・・・・・・・・・・・・・	3
(1) 大学図書館の整備について ―変革する大学にあって求められる大学図書館像―	
(2) 国立大学図書館機能の強化と革新に向けて～国立大学図書館協会ビジョン2025～	
(3) 新型コロナウイルスによる学術研究への影響と支援シーズに関するアンケート	
金沢大学附属図書館の課題・・・・・・・・・・・・・・・・	5
金沢大学附属図書館 大学図書館未来構想2022 の基本コンセプト	6
金沢大学附属図書館 大学図書館未来構想2022 のアクションプラン	8
おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	13
(1) 新図書館構想WG委員	
(2) 審議経緯	
(3) 関連イベント	
付録 (参考資料)・・・・・・・・・・・・・・・・	13

はじめに

「金沢大学附属図書館 大学図書館未来構想2022」策定の経緯と趣旨

- YAMAZAKI プラン 2020 Next StageのVisionVI「徹底した学習支援」の一環として、現行図書館機能の整理と新図書館構想の再策定を行うよう学長から指示
- 附属図書館の若手職員を中心としてブレインストーミングを行った上で、附属図書館長、同副館長、医学図書館長から意見聴取
- 幅広い分野の教職員からなる新図書館構想WG、図書館委員会等で審議、構想を策定

2020年6月に策定されたYAMAZAKI プラン 2020 Next Stage VisionVI「徹底した学習支援」において、学生支援の抜本的強化が示され、その一つのActionとして「現行図書館機能の整理と新図書館構想の再策定」が明記された。なお、「再策定」とは、2017年12月に策定した「大学図書館未来構想“知と創造の学修館” 一常に先進的で、心地よい空間の創出—」をその対象としている。

この指示を受け、2020年度に附属図書館の若手職員を中心とした検討グループを設置し、大学図書館を取り巻く状況、本学附属図書館に対し求められる機能・役割を検討・認識した上で、その実現のための方策について、実現可能の別を問わず、自由闊達に意見交換を行った。

当該意見交換で得られた意見を取りまとめ、2021年3月に附属図書館長、同副館長、医学図書館長に報告を行い、意見交換・方向性の確認を行った上で、2021年度に幅広い分野の教職員からなるワーキンググループを設置し、検討することとした。

2021年度に附属図書館長を主査とし、人文社会系、理工系、医薬保健系の図書館委員会委員、留学生支援、学修支援、デジタルトランスフォーメーション担当の各教員と関係事務職員を構成員とする新図書館構想WGを設置し、8回にわたって審議・検討を行った後の2022年1月に意見を取りまとめた。その後、図書館委員会、情報企画会議等の審議を経て第224回教育研究評議会（2022年2月14日開催）で承認され、本構想の策定に至った。

なお、本構想の検討に当たっては、本学の大学憲章、附属図書館が掲げた「基本理念と目標」を踏まえている。

大学図書館全般の動向

- 大学図書館は、学術情報の主要な生産拠点である大学の活動を支える重要な基盤であるとともに、新たな知を創出するための交流の場であることが求められている。
- この役割を支える図書館職員の育成、高度化が求められている。
- ウイズコロナ・アフターコロナにおいても図書館の必要性は不変であるが、新たな機能や対応が求められている。

(1) 大学図書館の整備について—変革する大学にあって求められる大学図書館像—

文部科学省は、「大学の教育機能に対する社会的要請の高まり」、「大学の研究機能に対する直接的な還元要求」、「高等教育と学術研究における電子情報資源の導入、管理、提供に関する対応が大学図書館に課されることなりつつある」等の動きを背景として、大学図書館の整備の在り方に関し検討を行い、2010年12月に以下のとおり取りまとめている。

出典：文部科学省HP [https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm]

概要は、以下のとおり。

◆大学図書館の機能・役割及び戦略的な位置付け

- ・大学図書館の基本的機能：大学における学生の学習や大学が行う高等教育及び学術研究活動全般を支える重要な学術情報基盤の役割を有しており、大学の教育研究にとって不可欠な中核を成す総合的な機能を担う機関の一つである。
- ・大学図書館に求められる機能：①学習支援及び活動への直接の関与、②研究活動に即した支援と知の生産への貢献、③コレクションの構築と適切なナビゲーション、④他機関・地域等との連携並びに国際対応。

◆大学図書館職員の育成・確保

- ・大学図書館職員の業務内容の変化を踏まえた当該職員の育成・確保の必要性：
大学図書館が重要な学術情報基盤としての機能を効果的に発揮していくため、大学図書館職員は、伝統的な業務の充実を図るだけでなく、学術情報を駆使して学習、教育、研究に、より積極的に関与する専門家としてその必要性を学内にアピールし、従来の事務職員とは異なる職種と位置付け、大学内の様々な情報管理業務に関与していくべきである。
- ・大学図書館職員に求められる資質・能力等：①大学図書館職員としての専門性、②学習支援における専門性、③教育への関与における専門性、④研究支援における専門性。

(2) 国立大学図書館機能の強化と革新に向けて～国立大学図書館協会ビジョン2025～

2021年6月29日、第68回国立大学図書館協会総会において当該ビジョンが策定された。

当該ビジョンは、「国立大学図書館では、学術情報資源のデジタル化、場所や時間を問わず持続可能な情報提供体制の整備、教育・研究のデジタルトランスフォーメーションへの対

応等が強く求められ、また、国際的な動向や社会とのつながりを意識し、2015年に国連が掲げた世界共通の目標であるSDGs実現に向けて活動することも重要である」との認識に立ち、5年ぶりに改訂されたものである。

当該ビジョンにおける国立大学図書館の基本理念は、以下のとおり。

国立大学図書館は社会の知識基盤として、デジタル・非デジタルを問わず、知識、情報、データへの障壁なきアクセスを可能にし、それらを活用するための環境を利用者に提供することで教育の質保証、研究力やイノベーション力の強化を推進する国立大学の教育研究活動を支え、社会における新しい知の共有、創出の実現に貢献する。

3つの重点領域とそれぞれにおける目標は、以下のとおり。

重点領域1 知の共有：蔵書を超えた〈知識や情報〉の共有

目標1-1 教育研究成果の発信、オープン化と保存

目標1-2 図書館資料の整備と利用のための保存

目標1-3 知識や情報の発見可能性の向上

重点領域2 知の創出：新たな知を紡ぐ〈場〉の提供

目標2-1 知を創出する場の拡大・整備・提供

目標2-2 社会・地域に開かれた知の創出空間の提供

重点領域3 知の媒介：知の交流を促す〈人材〉の構築

目標3-1 多様な人材との協働

目標3-2 国立大学図書館職員的能力向上

(3) 新型コロナウイルスによる学術研究への影響と支援シーズに関するアンケート

科学技術・学術審議会学術分科会が専門的知見を有する大学等の研究者に対して行った当該アンケート（2020年5月12日～19日）において、以下が図書館関係としてあげられた。

◇コロナ禍による研究への即時的影響 ⇒ 研究体制の縮小

- ・図書館の閉鎖等で図書館所蔵資料の参照が困難なため、論文執筆が進まない。
- ・自宅等から電子ジャーナルの閲覧ができないため、研究等の整理が困難。

◇研究活動の停滞等による中期的課題 ⇒ 知のデータベース化

- ・学術論文等のデータインフラ利用拡大に向けた体制整備のための支援が必要。
- ・学問的資料（紙媒体）のデジタル化推進のための支援が必要。

金沢大学附属図書館の課題

これまで定期的に実施してきた「附属図書館自己点検・評価報告書」（2008年度、2015年度、2019年度）における評価項目別に、近年の社会情勢の変化やデジタルトランスフォーメーション構想等の学内情勢の変化への対応を踏まえた課題について洗い出しを行った。

1. 組織・管理・運営

- ・AI, IoT, 5G等の新技術の社会実装が世界で進行する中、デジタルツールの活用は一層加速しており、この状況に応じた整備が必要である。
- ・各分野の最先端の専門知識を有し、大学図書館として必要な資料を体系的に整備した上で、利用者からの高度なレファレンス質問に対応できる教員的図書館員（サブジェクト・ライブラリアン）等の組織整備が必要である。
- ・学生数の増加に応じた図書館職員数の確保が必要である。
- ・図書館業務用システムと予算執行支援システム間の連携の改善が必要である。

2. 情報資源・資料

- ・利便性の向上や書架狭隘化の解消のためには蔵書等の電子資料化への転換を進めると同時に、世界的な図書館資料のオープンアクセス化の動向を踏まえた資料除籍の促進が急務である。
- ・本学の第4期中期目標・中期計画に掲げる金沢大学版デジタル・キャンパスの実現に沿った対応が必要である。
- ・基本理念等に基づき資料の収集・保存を行っているものの、貴重資料等の保存方法等については改善が必要である。

3. サービス

- ・ダイバーシティの推進を踏まえた、多様な利用者へのサービスが必要である。
- ・ウイズコロナ・アフターコロナ時代に対応した新しいサービスの提供が必要である。

4. 学修支援

- ・授業時間外での自学自習を中心とした学修支援の充実に向け、関係部署との更なる連携が必要である。
- ・学生（留学生含む）の多様なニーズをとらえた学修支援体制及び環境整備が必要である。特に、自学自習の場として、ディスカッション等を行う「会話可能なスペース」と学習等に集中できる「静かなスペース」をゾーニングした上で整備する必要がある。

5. 地域連携・社会貢献

- ・地域の図書館等との更なる連携が必要である。
- ・イベント等の充実と、本学の立地条件等を踏まえた企画内容や広報強化が必要である。

6. 経費

- ・外部資金の導入や受益者負担制度等の新しい仕組みの構築の検討が必要である。

7. 施設・設備

- ・空調、エレベーター等の館内設備への要望（苦情）への対応が急務である。
- ・ニーズに応じた施設・設備整備と、更なる充実が必要である。

金沢大学附属図書館 大学図書館未来構想2022 の基本コンセプト

大学図書館全般の動向を意識しながら、前章に記載した本学附属図書館の課題解決に向けた将来構想として、5つの基本コンセプトに整理した。

■基本コンセプト1：蔵書・電子媒体等による知の集積・保有，未来への継承

知の集積・保有に関しては、紙媒体に加えて、電子書籍や電子ジャーナル等の電子媒体で実施されており、今後、より多くの知識や情報が電子化された形で出版され、オープンアクセス化されることから、新たな形式（電子媒体）での知の集積・保有への転換を進める。

また、既存の紙媒体の資料に関しては、著作権等に関する制約のないものについて、国立国会図書館、他大学図書館等での電子化・オープンアクセス化の状況を踏まえた上で、電子化を進め、利用者がどこにいても、必要とする書籍やデータにアクセスできる環境を実現するとともに、各種業務の効率化に資するシステムの導入についても促進する。

加えて、コレクション構築のあり方やコンテンツの利用を促進するための手法を探る。

■基本コンセプト2：学修支援の機会・機能の提供，交流による新たな知の創造

学生等からの要望が多いラーニングコモンズ（自学自習の促進、グループ学習の促進、知的交流の場）の拡充を進めるとともに、既存の「ほんとかふえ。」（中央図書館）、「プラタナスカフェ」（医学図書館）の設置形態、運営方法、スペース等も含め見直しを行い、誰もが気軽に立ち寄ることができ、交流によりそれぞれの感性が響き合う「新たな創造の場」とすると同時に、学生にとって「心地よい居場所」となるよう再整備を進める。

学修支援に関しては、現時点では、英語で書くレポート作成へのサポートを目的としたライティングセンター、学生からの個別学習相談を行うライブラリー・ラーニング・アドバイザー、グループ学習のためのラーニングコモンズ等を設置しているが、より学生目線に即したレベルの高い支援を行い、いわば附属図書館が学生の生活動線の一部となるような方を講ずる。

また、留学生等への支援や国際化促進に向けた取り組みへの支援についても、引き続き、国際機構及び国際部と連携の上、推進する。

加えて、教員から求められる教育研究活動への支援や、各キャンパス（各館）のニーズに応じた支援を推進する。

■基本コンセプト3：社会と大学との新たな関係の構築

大学の附属図書館には、地域の図書館にない専門書が充実しており、地域の図書館等と連携を進めることで、地域市民の生涯学習をより豊かなものとするができることから、石川県図書館協会加盟館、石川県大学図書館協議会加盟館、近隣博物館等との交流・連携を一層推進する。

附属図書館が主催・共催する各種イベント開催の充実や、本学の各種行事と連動して学外者を附属図書館に呼び込むような方策を講じ、社会との関係性の深化を図る。

金沢市は大きな戦災に遭わなかったため、附属図書館には、前身校である旧制高等学校・旧制大学・師範学校等の資料がほぼそのまま残っている。角間キャンパスには立地上のデメリットはあるが、附属図書館と資料館が一体化している点是他大学にはない特徴であり、メリットである。このような他大学にはない強みを社会へ一層発信し、金沢大学全体の広報としても役割を果たす。

■基本コンセプト4：これからを支える人材の育成，多様な環境整備

課題解決には、専門知識を有した人材と多様な人材，経費の確保が重要であり，計画性のある人材養成と確固な財政基盤が必要である。リソースは限られており，すべてを準備することは不可能ではあるものの，事項の優先順位付けや取捨選択を行うとともに大学以外のリソースの導入も含めた，人材の確保と能力の向上を図る。

加えて，デジタルトランスフォーメーションの進展，ウイズコロナ・アフターコロナに対応した設備や機器等の導入を推進する。

■基本コンセプト5：公共的な施設としての基本的機能の改善・新技術の導入

本学の附属図書館は，大学の教育研究を支える重要な基盤であるとともに，国立大学の施設として，広く国民の知の基盤として生涯教育に貢献する役割も求められているとの認識に立ち，“利用者に寄り添ったサービス”を提供する。

利用者の利便性・安全性の向上，また管理運営の効率化については，AI，IoT，5G等のデジタル技術を駆使して充実を図る。

施設面では，バリアフリーの拡充やすべてのジェンダーが快適に利用できる環境整備等を推進する。

金沢大学附属図書館 大学図書館未来構想2022 のアクションプラン

前章の基本コンセプトを踏まえ、概ね現時点から6年程度を有効な期限として、直ちに重点的に取り組む事項を【重点】、短期的（2022～2023年度実施）及び中期的（2024～2027年度実施）に取り組むべき事項を【短期】・【中期】と整理した。

■基本コンセプト1：蔵書・電子媒体等による知の集積・保有，未来への継承

① 所蔵資料の電子化

アクションプラン1-1-1 新規購入資料の電子書籍化の促進

【短期・中期】【重点】附属図書館所管の範囲内で購入する電子書籍（本学構成員が自由に利用できる契約を行った上で利用できる電子書籍）の購入額を2022年から2027年度の間、毎年、概ね10%増となるよう、積極的に紙書籍から電子書籍へ移行する。また、移行を加速するための必要経費を要求する。なお、現時点においては、本学に有用な電子書籍が十分に販売されておらず、従前どおり紙書籍で購入せざるを得ない資料もあるため、状況を見極め、計画的に予算要求する。

アクションプラン1-1-2 所蔵貴重資料の電子化の促進

【短期】【重点】コレクション検討WG（仮称）を立ち上げ、附属図書館所蔵の貴重資料（10,000点）について、国立国会図書館及び他大学図書館での電子化状況を踏まえた上で、電子化促進方針を策定する。当該方針に基づき電子化を進めるため、計画的に予算要求する。また、コレクション検討WG（仮称）において、所蔵資料の公開方針についても策定する。

【中期】継続して、上記に基づき、電子化を促進する。

アクションプラン1-1-3 所蔵資料のオンライン送信サービスの実施

【短期】国立大学図書館協会等における著作権法改正後の運用方針についての検討結果に基づき、業務フローを策定する。

【中期】上記に基づき、サービスを実施する。

② コレクション構築

アクションプラン1-2-1 話題性の高いテーマに対応した選書の実施

【短期】知的好奇心を刺激する話題性の高いテーマ等、図書館として重点的に選書する領域を示す「新収集方針」を図書館委員会、学生用図書選定部会で検討する。

【中期】「新収集方針」を随時更新し、最新のニーズに合った選書を継続的に実施する。

アクションプラン1-2-2 利用価値の低くなった図書の除籍の促進

【短期】【重点】2021年度に改正の「新除籍基準」に基づき、除籍を促進する。なお、除籍により生じるスペースをラーニングコモンズ等のニーズの高い施設に改修するため、集中的に除籍作業を行う経費及び改修経費について、年度計画を策定の上、予算要求する。

【中期】「新除籍基準」に基づいて、除籍を継続的に実施する。

アクションプラン1-2-3 コレクションの研究資源化

【短期】既存の附属図書館所蔵資料を生かし、「北陸唯一」「全国有数」となるようなコレクション構築を進めるための仕組みをコレクション検討WG(仮称)において検討する。

【中期】上記に基づき、コレクションの研究資源化に向けた取り組みを推進する。

アクションプラン1-2-4 金沢大学史コレクションの構築

【短期】金沢大学史に関する資料コレクションを資料館と連携して体系的に構築するための方策をコレクション検討WG(仮称)において検討する。

【中期】上記に基づき、コレクションやWebコンテンツの構築を推進する。

■基本コンセプト2：学修支援の機会・機能の提供、交流による新たな知の創造

① 学修の場・居場所の提供

アクションプラン2-1-1 自学自習の場、ラーニングコモنزの拡充

【短期】【重点】学生の需要、各学類・大学院専攻等からの要望、大学としての必要性等を調査・分析した上で、オンライン授業・活動に対応できる防音機能完備の個室、館内における自学自習の場、ラーニングコモنز等の整備計画を策定し、計画的に予算要求を行う。

【中期】蔵書の除籍及び電子化の促進に伴い確保できたスペース、又は、増築により確保できたスペースを使った整備を実施する。

アクションプラン2-1-2 学生の居場所となるスペースの拡充

◇ 中央図書館

【短期】【重点】「ほんわかふえ。」を含むブックラウンジの増床等の環境改善計画を策定し、予算要求する。

【中期】上記に基づき、引き続き、学生ニーズに応じ、交流による新たな知の創造が可能になるような改修等を進める。

◇ 自然科学系図書館

【短期】【重点】G1フロアに学生の居場所となるカフェスペース新設計画を策定し、予算要求する。また、G1フロアにある既存の個室(5部屋)の防音改修を進める。

【中期】上記に基づき、引き続き、学生ニーズに応じた改修等を進める。

◇ 医学図書館

【短期】プラタナスカフェ(運営：附属特別支援学校)の機能維持と営業日の拡大方策について、学校教育学類等に相談・検討する。

【中期】上記に基づき、学生ニーズに応じ、交流による新たな知の創造が可能になるような改修等を進める。

② 学修支援、学生サポートサービスの充実

アクションプラン2-2-1 ライティングセンター機能の拡充

【短期】2022年度まで試行的に実施しているライティングセンター機能について、教学マネジメントセンター等と連携し、2023年度以降の取り組み等を検討する。

アクションプラン2-2-2 ピアサポートによる学修支援の高度化

【短期・中期】ピアサポートによる学修支援に関する大学全体の方針を踏まえ、教学マネジメントセンター等と連携してライブラリー・ラーニング・アドバイザーによる学修相談の高度化を推進する。

アクションプラン2-2-3 レファレンスサービスの充実

【短期】専門的内容に関する支援についてのニーズを分析した上で、実施の可否・方策について検討する。

【中期】上記を踏まえ、必要な方策を講ずる。

③ 留学生等への支援・国際化対応

アクションプラン2-3-1 留学生支援・国際化促進の実施

【短期】2023年度までSGU事業の一環として実施している当該事業について、国際機構等と連携し、2024年度以降の取り組み等を検討する。

【中期】上記を踏まえ、必要な取り組みを推進する。

アクションプラン2-3-2 留学生・外国人研究者向け支援

【短期】国際機構等と連携し、学修支援以外の支援を含むワンストップサービスのニーズについて分析・検討する。

【中期】上記を踏まえ、必要な取り組みを推進する。

④ 全学の動向を踏まえた教育支援

アクションプラン2-4-1 教員が作成した教材の利用支援

【短期】学術メディア創成センターで構築している教材データベースの利用状況等を踏まえ、附属図書館 OPAC plus（蔵書検索システム）との横断検索等を検討する。

アクションプラン2-4-2 FD活動支援の促進

【短期】教学マネジメントセンターや各部局・各キャンパスで実施しているFD活動の状況を踏まえ、必要に応じ、附属図書館内にFD活動用スペースの整備を検討する。

アクションプラン2-4-3 自校教育への協力

【短期】コレクション検討WG（仮称）での検討結果を踏まえ、所蔵資料を活用した、金沢大学史に関する授業・展示等の実施を検討する。

⑤ 全学の動向を踏まえた研究支援

アクションプラン2-5-1 研究データ管理支援への協力

【短期】研究データ管理・保存に関する大学全体の方針を踏まえ、学術メディア創成センター、先端科学・社会共創推進機構（URA）等と連携した研究データの保存並びにそのオープンアクセス・オープンサイエンスの実施を検討する。

アクションプラン2-5-2 研究成果発表の場の提供

【短期】学内のニーズを踏まえ、学生や一般利用者向けに、各学問分野の最新の研究成果についてのプレゼンテーションやポスターセッション等を行うことのできる学術成果発信スペースの整備を進める。

⑥ 各館の使命に応じた対応

アクションプラン2-6-1 中央図書館

【短期・中期】初学者に対する学びの誘導、人文社会系学生に対する居場所の確保、留学生に対する配慮について、引き続き、推進する。

アクションプラン2-6-2 自然科学系図書館

【短期・中期】大学院レベルの専門性の確保、留学生に対する配慮について、引き続き、推進する。

アクションプラン2-6-3 医学図書館（保健学類図書室含む）

【短期・中期】国家試験対策、医学・医療・保健学分野に特化した専門性の確保への配慮について、引き続き、推進する。

■基本コンセプト3：社会と大学との新たな関係の構築

アクションプラン3-1 地域の図書館・博物館との連携の強化

【短期・中期】石川県図書館協会加盟館、石川県大学図書館協議会加盟館、近隣博物館等との交流を深め、新たな取り組み等を検討する。

アクションプラン3-2 所蔵貴重資料の一般公開の促進

【短期】コレクション検討WG（仮称）において、所蔵貴重資料の展示・保存・環境整備に関する方針を検討・策定し、推進する。

アクションプラン3-3 中央図書館AV室の角間地区における知的イベントの拠点化

【短期】一般市民等の利用も想定した上で、中央図書館AV室のミニシアター化を検討し、予算要求する。

【中期】上記を踏まえて、イベント等の開催を推進する。

■基本コンセプト4：これからを支える人材の育成，多様な環境整備

① 全学の動向を踏まえた人材確保

アクションプラン4-1-1 多様な人材との協働

【短期・中期】①学生と協働した学習・学修活動の充実，②教員や他部局職員等と協働した教育・研究活動の充実を推進する。

アクションプラン4-1-2 専門性の高い人材の確保

【中期】人員配置に関する大学全体の方針を踏まえ，図書館職員を中心として様々な能力を有する人材の集合体を形成することで多様な知の共有と創出を促す。

アクションプラン4-1-3 図書館職員の能力の向上

【短期・中期】専門的知識や学習支援の経験に加え，デジタル化資料への対応等の新たな知識を習得し，実践する。

② 全学の動向を踏まえた環境整備

アクションプラン4-2

【短期・中期】デジタルトランスフォーメーションの進展やウイズコロナ・アフターコロナに関する大学全体の方針を踏まえ，必要に応じた設備・機器等を検討し，予算要求する。

■基本コンセプト5：公共的な施設としての基本的機能の改善・新技術の導入

アクションプラン5-1 金大アプリ等を活用したスマート図書館化とセキュリティの向上

【短期】入館ゲートの改修，図書館間相互貸借料金の電子マネー化，ICタグによる蔵書管理等の実現に向けた方策を検討し，予算要求する。

【中期】上記を踏まえ，新サービスに取り組む。

アクションプラン5-2 対話型AIチャットボットサービスの導入

【短期】【重点】問い合わせ頻度の多い定型的な質問に係る業務負担を軽減するため，対話型AIチャットボットサービスを導入し，業務改善を図る。

【中期】上記を踏まえ，効果的に活用する。

アクションプラン5-3 Webサービスと広報の改善

【短期】附属図書館広報委員会においてWebサービスと広報の改善・充実策を継続検討し，取り組みを進める。

【中期】図書館システムの更新時に合わせ，附属図書館OPAC plusの利用履歴等のビッグデータを活用した新サービスについて検討し，予算要求する。

アクションプラン5-4 館内のバリアフリー化

【短期】【重点】中央図書館及び自然科学系図書館の利用者用エレベーターを中心とした利用者動線の改善策について，施設部の協力を得ながら進める。

【中期】上記を踏まえ，改善を図る。

おわりに

大学図書館は、学生の学習や高等教育及び学術研究活動全般を支える重要な学術情報基盤形成を担う機関である。大学を取り巻く環境の変化やICTの導入、デジタルトランスフォーメーションの進展をしなやかに受け止め、図書館に求められる機能を強化していかなければならない。

本学附属図書館においても、教育・研究の将来構想に基づき、蓄積してきた情報・資料と最先端の知見・技術との融合を図り、社会に先駆けて新たな総合的な知の創出を担う重要な基盤としてあり続け、さらに発展すべきである。

本構想の実現のため、附属図書館だけではなく全学挙げて取り組むことが重要である。

(1) 新図書館構想WG委員

附属図書館長〔理事〕	山岸 雅子 (主査)
附属図書館副館長〔人間社会研究域 教授〕	杉山 欣也
理工研究域 准教授	川西 琢也
医薬保健研究域 教授	尾崎 紀之
国際機構 教授	峯 正志
学術メディア創成センター 教授	西山 宣昭
教学マネジメントセンター 教授	林 透
情報部長	北村久美子
情報部情報企画課長	山本 修
情報部情報サービス課長	橋 洋平

(2) 審議経緯

2022年1月27日	図書館委員会	承認
2022年2月4日	情報企画会議	承認
2022年2月10日	役員等懇談会	承認
2022年2月14日	教育研究評議会	承認

(3) 関連イベント

目的：「図書館のこれからのを考えるイベント」として展示会を開催

期間：2021年11月9日～12月1日

- ・図書館を知る「図書館が登場する本・映画の展示」
- ・図書館を知る「海外図書館パネル展」

付録 (参考資料)

- ・「金沢大学 大学図書館未来構想“知と想像の学修館”」(2017年12月15日)
<https://library.kanazawa-u.ac.jp/?p=5156>
- ・「国立大学図書館協会ビジョン2025」(2021年6月25日)
<https://www.janul.jp/ja/organization/vision2025>